

令和6年度第1回伊勢原市子ども・子育て会議 議事録概要

- 1 日 時 令和6年7月30日（火） 午後6時30分から午後8時30分まで
- 2 場 所 伊勢原市役所 3階 3B会議室
- 3 出席者 佐伯会長、萩原副会長、照屋委員、諏訪委員、小山委員、安武委員、古住委員、土屋委員、及川委員、錦織委員、小木委員、大田（真）委員、事務局（子ども部長 山田、子ども家庭相談課参事兼課長 平井、子ども育成課長 佐藤、子育て支援課長 杉山、青少年課長 増田、松本、石津、柿澤）
- 4 欠席者 井田委員、大田（正）委員、守屋委員
- 5 傍聴人 なし
- 6 議事概要
 - 1 開会（午後6時30分）
 - 2 委嘱状交付
 - ・ 令和6年3月をもって、前期間の委員任期が満了となったことから、新たに令和8年3月31日までの2年間を任期とする委員を委嘱した。
 - 3 挨拶
子ども部長から挨拶
 - 4 会長選出
 - 5 議題
 - (1) (仮称)伊勢原市こども計画の策定について
 - こども計画策定の背景、計画の位置づけ、計画の構成イメージ、計画の策定体制、今後の予定について、資料1により説明。
(委員)
 - ・ こども計画に包含する計画について、資料では「第2期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画」（令和6年度までを期間とする現行計画）としているが、今年度策定する「こども計画」に包含するのは「第3期」の計画ではないか。
 - (事務局)
 - ・ 御指摘のとおり、包含する計画は「第3期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画」であるため訂正する。
 - 【議事の議決について】
承認された
 - (2) 教育・保育の量の見込み（素案）と確保方策について
 - 量の見込みの推計方法等について、資料2により説明。
(委員)
 - ・ 資料では、「国の手引きに基づくニーズ調査結果から推計する方法と、事業実績から推計する方法がある」と説明がある一方で、「国の手引きに基づき、

ニーズ調査結果からではなく、事業実績から推計する方法で推計する」という説明もある。これでは意味が違っているのではないか。

(事務局)

- ・ 「国の手引きに基づき」が正しいため訂正する。

(委員)

- ・ コーホート変化率法により児童人口を推計したとのことだが、0歳人口だけ15～49歳女性の過去5年の出生率を使用しているのはなぜか。

(事務局)

- ・ 例えば令和3年の1歳は、令和2年の0歳である。1歳以降については前年の一つ下の年齢からどう推移したかという過去5年間の変化を捉えて、令和7年度以降の5年間で推計する。一方で、0歳は前年の年齢がないため変化率が使用できないことから、出生率を使用している。

(委員)

- ・ 対象年齢の15歳は毎年減っている段階にあると思う。そうすると、資料のように0歳人口が令和6年度の559人から令和7年度に1割ほど増えて606人になるというのは考えにくいのではないかと感じる。

(事務局)

- ・ 次回の会議で出生率のデータをお示しする。

○ 教育・保育の量の見込み（素案）と確保方策について、資料3により説明。

<1号、2号認定について>

(事務局)

- ・ 量の見込みはニーズ調査結果を補正した値に基づくものとし、確保量は既存の定員数により充足することを提示した。
- ・ 1号、2号、3号認定とはどのようなものか説明した。

(委員)

- ・ ニーズ調査において、双子の場合のニーズは2人とカウントされるのか。

(事務局)

- ・ そのとおり。

(委員)

- ・ 確保量が令和6年度実績と比較して令和7年度以降で減っているのはなぜか。

(事務局)

- ・ 確保量とは、施設ごとに定めた利用定員の総数である。利用定員は、年度ごとに施設の状況によって変更が生じることがあり、現時点で、令和7年度以降に減員したいという施設があるため、それを踏まえた令和7年度の利用定員を確保量としている。利用定員の内訳についてはまたの機会の説明させていただきたい。

(委員)

- ・ 「市独自の補正」とは何か。

(事務局)

- ・ 補正前のニーズ調査結果に基づく量の見込みというのは、あくまで昨年度にニーズ調査を実施した時点での意向（希望率）を基に、令和7年度から令和11年度までを見込んだものである。実際には、共働き世帯が増えているため人口に対して申込者数は増加しており、令和7年度から令和11年度にかけても申込率はさらに上昇していくだろうと見立てていることから、その

申込率の伸びを反映させて推計している。

< 3号認定（0・1・2歳）について >

（事務局）

- ・ 量の見込みはニーズ調査結果を補正した値に基づくものとし、0歳については、確保量は既存の定員数により充足することを提示した。1・2歳については、確保量は既存の定員数では不足することから、確保方策として、市内保育所、認定こども園等の設置者に協力いただいて定員を見直すことで、定員の拡充を図ることを提示した。

（委員）

- ・ 0歳の令和6年実績に関しては7月までの実績だと思うが、令和5年度以前の実績はいつのものか。年度途中の実績だと年度全体の見込みが考えにくいのではないか。

（事務局）

- ・ 全ての年度で4月1日時点での実績を指している。令和6年度の実績も4月1日時点で73人であると示している。0歳児については、4月から3月にかけて増えていき、例年4月と比べて3月末は1.5倍ほどになる。例えば令和5年度は、4月時点で86人だったのが3月時点で129人だった。それを踏まえると、令和6年度実績の73人に対して令和7年度の見込みの138人は多いように見えるが、必要な数を見込んでいる。

（委員）

- ・ 育児休暇をしっかりと取得する家庭も増えていることを踏まえて見込みを立てていくのがよいと考える。

（事務局）

- ・ 承知した。

【議事の議決について】

承認された

-6 その他

- ・ 次回の会議は、8月27日（火）に伊勢原市役所3階第3委員会室で開催することを報告した。

-7 閉会（午後8時30分）